

在宅と病院を結ぶ会事例検討会開催

患者さんの「意思決定支援」について、ディスカッション！！

2017年2月10日(金)東葛病院医療連携サポートセンターと東葛病院附属診療所たんぼぼ訪問看護ステーションが主催する「病院と在宅とを結ぶ会」が、開かれました。昨年の5月の病院移転があり、病院運用が安定するまでお休みしていました。久しぶりの開催となりましたが内外含め30余名の参加がありました。今回のテーマは、終末期の意思決定支援に関して、病院と在宅スタッフがどう連携するかということです。

それぞれがかかわった COPD の終末期の一人の患者さんを通して、それぞれの視点から発表しあい、様々な職種がシャッフルされる形でグループとなり、ディスカッションが繰り広げられました。わがたんぼぼ訪問看護からは、ベテラン勝木ナースが、「意思決定は、単刀直入に聞いて、患者・家族の思いを知り、様々な在宅療養経験を語ってイメージを作ってもらい、自分たちで選びやすいよう支援することが肝要」と発表していました。



開会挨拶する地域包括ケア病棟 医長栄原医師



たんぼぼ訪問看護 SI 勝木看護師（発表席向かって左）
向かって右は、病院からの発表をする山本師長

グループのまとめの発表では、在宅のスタッフから「患者さんが最期をどこで迎えたいのかを決められなくても返してくれていいよ。でも、決められない理由や、患者、家族の思いや願いを看護サマリーに記入したり、退院前カンファレンスで情報提供したりしてくれるとフォローしや

すい」との話があり、一方在宅側でも、「入院の際には日常的な患者・家族の思いを聞いてそれを申し送ることも大切」との意見が出て、互いに目標を一つにできないか模索できた有意義な時間でした。



しっかりきめなくていいです。
グレーゾーンでも返ってきてくれていいですよ。by在宅



法人外からも、地域のクリニックの先生や訪問看護スタッフの方が来てくださり、それぞれの経験談が語られ、同じく地域医療を支える仲間同士、まさに「顔の見える連携」作りの機会ともなりました。

来年度も定期的な開催が予定されている「結ぶ会」です。地域の医療、介護職員の方々もお気軽に覗いてみてください。また、ご案内します。